

I 本町を取り巻く現状と課題

課題①

結婚・妊娠・出産をしやすい環境づくり・子育て環境の充実といった手厚い支援策の展開が求められている

課題につながる主な現状

- ▶ 合計特殊出生率(H30~R4)は1.31であり、全国平均(1.33)・福島県(1.37)よりも低い水準にある
- ▶ 平成30(2018)年から令和4(2022)年の5年間ににおける出生数は198人と10年前から半減している(参考:H20からH24の5年間は394人)
- ▶ 町民が希望する子ども数は、2人が最も多く、次いで3人となっている。

課題③

収入の増加、雇用の創出などの効果が期待できることから、本町の特性を活かした新たな産業の創出が必要

課題につながる主な現状

- ▶ 本町の総生産額は一貫して増加傾向にあるが、本町が強みとしている農林業・小売業を含む、第1次産業と第3次産業の生産額及びそう生産額に占める構成比は減少傾向にあり、衰退が懸念される

課題②

人口減少問題に直結するため、若年世代の女性の町外流出を抑制する取組が求められている

課題につながる主な現状

- ▶ 令和2年の総人口は9,471人で、平成27(2015)年の10,475人と比較し、1,004人(約10%)が減少
- ▶ 人口減少は出生数を死亡数が上回る“自然減”と転入数を転出数が上回る“社会減”が要因であり、社会減では、若い世代(10歳代~30歳代)の町外流出が顕著
- ▶ 年少人口(0~14歳)・生産年齢人口(15~64歳)の減少が顕著であり、多くの年齢層で男性より女性の流出が多い

課題④

まちづくりの動きに連動・先行する形で様々な施策・事業を実施していくことが必要

課題につながる主な現状

- ▶ 役場庁舎の移転、地域防災拠点としての防災性やアクセス性を踏まえた小野インターチェンジ周辺の開発、磐越東線の活性化などのまちづくり事業が進行
- ▶ また、令和10(2028)年に小野高校が完全閉校し、町内から高校が無くなる

II 小野町人口ビジョン【第2版】

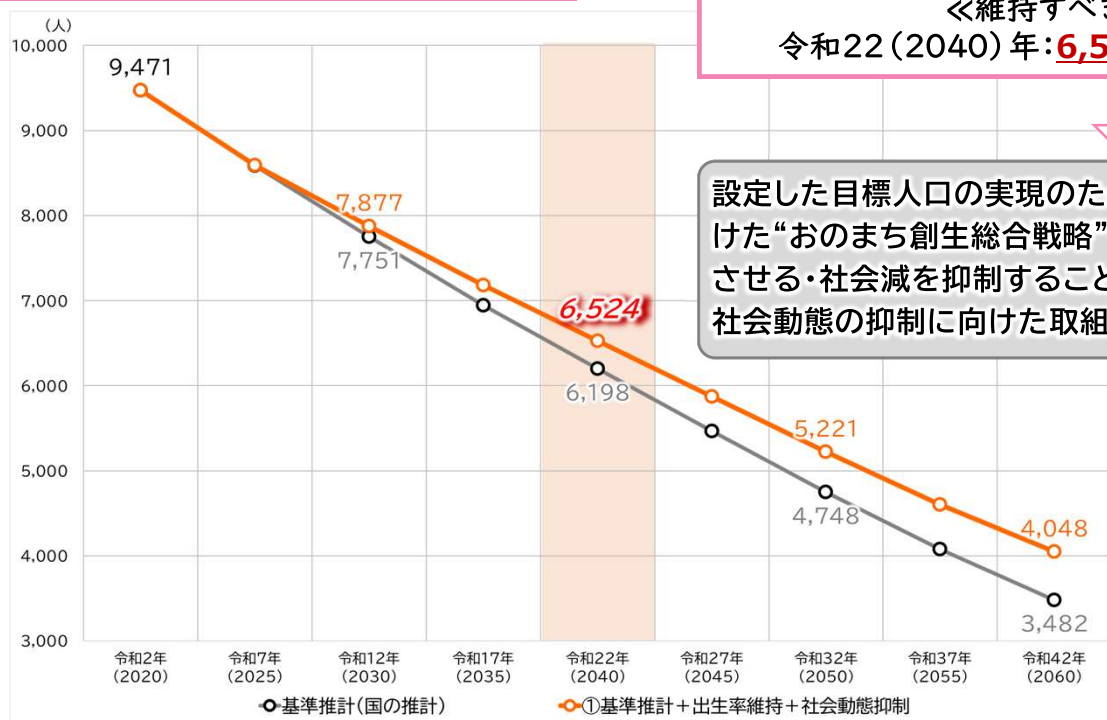
人口推計に至る現状

- ▶ 町の活力の担い手となるべき人口減少に歯止めをかけるために、若い世代の流出防止や町外からの転入促進に力を入れていくことが不可欠となっている

人口推計の仮定値

- ▶ 自然増減:出生率が1.31で推移 ▶ 社会増減:令和7(2025)年以降の純移動率が1/2になる

小野町の人口推計結果(長期的な見通し)



《維持すべき目標人口》

令和22(2040)年:**6,500人程度**の人口を目指す

設定した目標人口の実現のために、具体的な施策を位置づけた“おのまち創生総合戦略”を策定するが、社会増に転換させる・社会減を抑制することを念頭に、出生率の維持と社会動態の抑制に向けた取組を行う

1 目指すべきまちの姿

～総合戦略の目的～

①人口減少速度を緩やかにすること

▶人口ビジョンの目標人口である“令和22(2040)年に”6,500人“程度を達成するには...

出生率の維持

転出の抑制

が必要

②若年世代の流出を食い止めること

③一度離れてもまた戻ってきたいと思えるまちにすること

④将来に渡って住み続けたいと思えるまちにすること

⑤町民自身が町に愛着と誇りを持ち、自信をもって良いまちと言えること

上記5つの目的を踏まえ、総合戦略が目指すべきまちの姿を設定

【目指すべきまちの姿】

人口減少社会に適応したまちをつくる ～住み続けたい・戻ってきたいまち～

2 基本目標

目指すべきまちの姿の実現に向けた基本目標を設定

基本目標1 全ての町民が活躍できるまちをつくる【ひと】 基本目標3 新しい人の流れをつくる【人の流れ】

基本目標2 仕事を増やし、安定した雇用をつくる【しごと】 基本目標4 魅力的な地域をつくる【くらし】

3 基本的な考え方(全ての施策・事業に共通する考え方)

●目指すべきまちの姿の実現にあたっては、下記の3つの考え方を加え、一層の推進を図ります。

基本的な考え方1

:デジタル化の推進

基本的な考え方2

:持続可能なまちづくりの推進

基本的な考え方3

:多様な主体との連携の推進

4 計画期間

●総合戦略の計画期間は、令和7(2025)年度から令和11(2029)年度までの5年間とします。

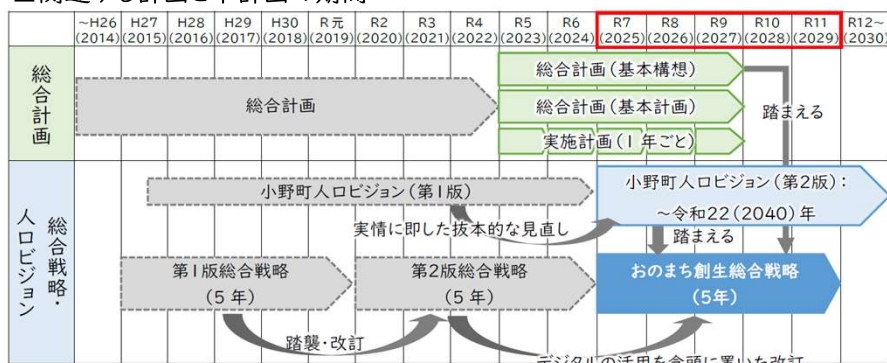
5 位置づけと構成

●本町のまちづくりにおける最上位計画として「小野町総合計画」がありますが、総合戦略は其中でも特に人口減少対策と地方創生に特化した計画であることから、最重要課題である人口減少を克服するための総合戦略と総合計画が、より密接に補完・連携しながら、施策・事業を加速させていきます。

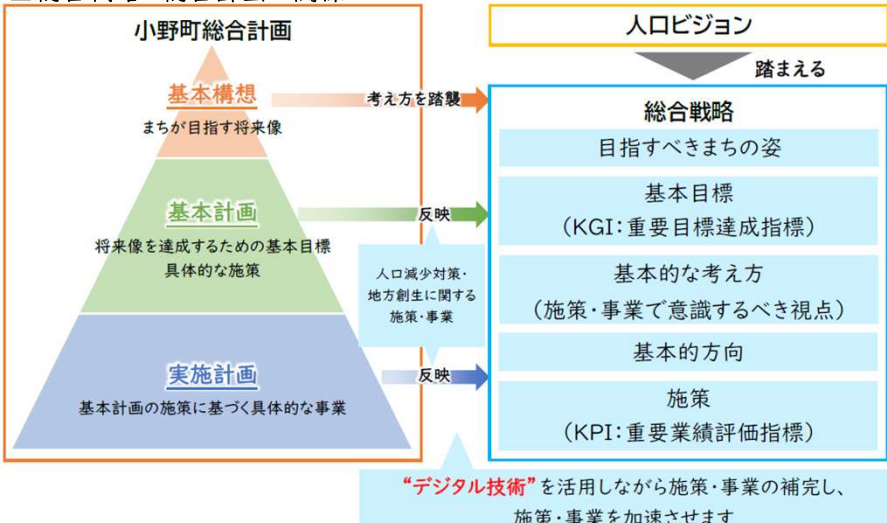
6 推進体制・進捗管理

●施策・事業の効果検証を担う推進会議と総括的な進捗管理の役割を担う推進本部、実行部隊であるワーキンググループを設置するほか、数値目標等の年度ごとの把握を基にしたPDCAサイクルの徹底による進捗管理を実施します。

■関連する計画と本計画の期間



■総合戦略と総合計画の関係



“デジタル技術”を活用しながら施策・事業の補完し、施策・事業を加速させます

「全ての町民が活躍できるまちをつくる【ひと】」

基本目標 1

基本的方向	施策
1. 出会い・結婚・妊娠・出産 ・子育て支援の充実	(1) 出会いの機会の創出や結婚支援 (2) 安心して子どもを産み育てることができる環境づくり (3) 子どもの成長を支える包括的な子育て支援 (4) 子育て世帯の経済的負担の軽減
2. 教育環境の充実	(1) 学力・体力の向上 (2) 地域とともにある教育環境づくり
3. 誰もが活躍できる社会の実現	(1) 若者や女性が活躍できる環境づくり (2) 外国人住民への生活及び社会参画の支援

「仕事を増やし、安定した雇用をつくる【しごと】」

基本目標 2

基本的方向	施策
1. 農業の振興	(1) 生産性向上に向けたスマート農業の実現 (2) 多様な担い手の育成・確保 (3) 農業経営体の組織化 (4) 農業生産基盤の充実
2. 商工業の振興	(1) 若者や女性が働きやすい環境の整備 (2) 中小企業経営の安定化・活性化の支援 (3) 空き店舗等を活用した起業・創業希望者、事業承継・後継者育成の支援 (4) 人材不足への対応
3. 特産品開発と外販機能の創出	(1) 新たな加工特産品の開発推進 (2) 6次産業化・発酵のまちづくりの推進 (3) 販路の開拓、製品のブランド化

「新しい人の流れをつくる【人の流れ】」

基本目標 3

基本的方向	施策
1. 地域資源を活用した交流の促進	(1) 観光受入・誘客体制の強化 (2) 公共施設の積極的な活用と各種スポーツ大会の誘致 (3) 情報発信力の強化
2. 移住定住の促進	(1) 移住定住に関する支援体制の強化 (2) 空き家等の有効活用

「魅力的な地域をつくる【くらし】」

基本目標 4

基本的方向	施策
1. いきいきと暮らし続けることができる地域づくり	(1) 生活習慣病の予防と介護予防支援 (2) 高齢者・障がい者等への生活支援 (3) デジタルデバйд対策
2. 地域コミュニティの活性化	(1) 小さな拠点づくりによる地域コミュニティ活動の活性化支援
3. 安全・安心で快適な環境づくり	(1) 総合的な防災・減災体制の確立 (2) 生活環境の維持向上 (3) 地域公共交通の充実
4. 効果的かつ効率的なまちの運営	(1) こおりやま広域圏、大学、教育機関等、多様な主体との連携によるまちづくりの実施

8 基本目標ごとの目標と取組の概要

【基本目標1】全ての町民が活躍できるまちをつくる【ひと】

町内に暮らす全ての町民が、生活や仕事、地域社会、教育などのあらゆる場面において、年齢や性別、国籍などの個性や特性、能力を十分に発揮し、結婚、妊娠、出産、子育てなど、人生におけるターニングポイントでの希望や就労など、生活に係る希望を叶えることができるまちをつくりまします。



▶数値目標(KGI:重要目標達成指標)

項目	単位	現状値(H30~R4)	目標値(R11)
合計特殊出生率	-	1.31	1.31 (現状値の維持)

【基本目標2】仕事を増やし、安定した雇用をつくる【しごと】

町内の産業分野における人材不足や生産性の向上への対応と町外流出を抑制し、若年層の流出に歯止めをかけるため、地域の強みを活かした産業の育成による収益性の向上や新たな産業の創出による雇用の場の確保を行い、就労環境の改善と併せて、若者が働きたいと思える環境をつくりまします。



▶数値目標(KGI:重要目標達成指標)

項目	単位	現状値(R3)	目標値(R11)
町内総生産額	百万円	29,136	32,800

【基本目標3】新しい人の流れをつくる【人の流れ】

本町が有する地域資源を活用した積極的な情報発信や小野インターチェンジ周辺開発、令和10(2028)年3月に校舎の完全閉鎖となる県立小野高校の跡地利活用による更なる魅力向上に取り組むことで、新たな人の流れを創出します。また、本町への移住・定住を促進するために、情報発信はもとより、空き家や空き地などの遊休物件等を活用した住まいの提供など、まちづくりの問題解決に向けた動きと連動した取組を行います。



▶数値目標(KGI:重要目標達成指標)

項目	単位	現状値(R5)	目標値(R11)
社会増減数	人	-77	-35

【基本目標4】魅力的な地域をつくる【くらし】

現在住んでいる町民が「小野町に住んで良かった」と思える魅力的なまちをつくるため、医療・福祉や保健・衛生、生活環境、コミュニティ、地域公共交通といった日常生活に直結する分野の取組を強化します。また、こおりやま広域圏等、他市町村と広域連携を図ることで効率的な住民サービスの提供に努めます。



▶数値目標 (KGI:重要目標達成指標)

項目	単位	現状値(R6)	目標値(R11)
高校生世代の定住意向	%	37.8	55.6
若者世代(19~49歳)の幸福度	ポイント	6.3	7.2

9 人口減少社会への適応

- 本町の状況を踏まえると、今後の人口増加が見込めないことから、人口減少が進行していくという前提のもと、「自然減少(抑制)対策」と「社会減少(抑制)対策」に総合的に取り組みつつ、デジタル技術の活用など人口減少社会に適応するための取組も進めていきます。

【総合戦略に掲げる基本目標とSDGsの関係】

※概要版につき、アイコンは一部抜粋、色味が反転しているものを記載



SDGsは、持続可能な開発のため、2030年までに取り組むべき国際開発目標で、将来の世代のために環境や資源を壊さず、共に成長し、他者を思いやり、環境を大切に、今の生活をよりよい状態にすることを目標にしています。小野町がより住みやすい、より住みたいというまちになるためには、SDGsの目標をバランスよく推進していくことが重要です。おのまち総合戦略では新たにSDGsの視点を取り入れることとし、各基本目標がSDGsの様々な目標に結びついていることを示すため17の目標アイコンを使って視覚的に分かりやすく見える化しています。

《小野町人口ビジョン【第2版】・おのまち創生総合戦略(令和7(2025)~令和11(2029)年度)》

策定:令和7(2025)年3月/発行:福島県小野町/TEL:0247-72-2111(代表)/FAX:0247-72-3121

本概要版における問い合わせについては、上記の窓口までご連絡ください。